

# 令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 津西高等学校 )

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持ち、社会をリードする人材を育成する学校</li> <li>○ これからの社会を生き、未来を切り拓いていくのに必要な資質、能力を培う学校</li> <li>○ 確かな学力と豊かな人間性を育み、進路希望を実現する文武両道の進学校</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会で生きるのに必要な力（主体性、協働性、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力等）と、それを支える確かな学力、豊かな人間性を身につけた生徒</li> <li>○ 将来、リーダーとして国際社会や地域社会に貢献しようとする高い志と夢を持つとともに、その実現に向けて学習や特別活動、部活動に意欲的に取り組む生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目指す学校像実現のために組織的に取り組み、生徒とともに成長しつづける教職員</li> <li>○ 生徒一人ひとりの可能性を引き出し、生きる力の育成と進路実現のためにサポートを惜しまない教職員</li> </ul>

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>《生徒》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学力の向上と学校生活の充実、進路希望の実現</li> </ul> <p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安心・安全で充実した学校生活と学力の向上、進路希望の実現</li> </ul> <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域をリードする人材の育成とそれによる地域の活性化</li> </ul>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校や生徒の状況、選抜情報などの情報提供</li> </ul> <p>《進学先》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 確かな学力と主体的に学ぶ力</li> </ul> <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人材育成と地域貢献</li> </ul>	<p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎学力の育成と高校生活への意欲</li> </ul> <p>《進学先》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己実現のための連携と情報提供</li> </ul> <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 探究活動への理解と支援</li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域をテーマとした課題研究で、一つの課題を継続して研究する取組を試みて欲しい。また、「提案」にとどまらず、地域で「実践・具現化」でき、「成果物」と「達成感」を得ることを期待する。</li> <li>○ 教員同士がいつでも授業を互見できる環境の推進を期待する。</li> <li>○ P T A等の代わりに、地域のサポーターによる学校支援地域本部のような学校を支援する取組が高校にもあってよいのではないかな。</li> <li>○ 地域の方や小中学生に、現在の西高の素晴らしさが伝わっていないとよく感じる。</li> <li>○ H P等の情報発信について、学校で行われていることが保護者や中学生にうまく伝わっていないと感じる。</li> <li>○ 以前に比べ、自転車通学のマナーはよくなった。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の多くが勉強と部活動の両立に努めるなど、充実した学校生活を送っている。素直で真面目な生徒が多く、熱心で懇切丁寧な学習指導、進路指導の結果、多数の生徒が国公立大学に進学するなど進路実現を果たしている。</li> <li>○ 確かな学力を身につけ、高い志と広い視野を持ち、主体的に考え、行動する生徒を育成し、難関大学に合格できるよう生徒の可能性を引き出すことが求められる。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員は生徒一人ひとりの学力向上や豊かな人間性の育成のために、教科指導や進路指導、部活指導をはじめ様々な教育活動に前向きに取り組んでおり、それが生徒の進路実現や地域、中学校の評価につながっている。</li> <li>○ 新しい学力観を視野に入れた高い志と広い視野を持った生徒の育成、社会で生きる力の養成、難関大学合格者増のための組織的取組が課題である。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持ち、社会で活躍する人材の育成、難関大学合格のための学力向上のために、生徒の可能性を引き出す計画的な教育活動や取組を推進する。</li> <li>○ 主体的・対話的で深い学びや探究活動を通して、確かな学力と社会で生きる力を育成する取組を充実する。</li> <li>○ 命を大切に教育に取り組み、自己肯定感を高め、一人ひとりが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 確かな学力を育むとともにICT機器を活用した授業づくりに向けて組織的に取り組む。</li> <li>○ 教職員が健康で意欲的に働くことができるよう総勤務時間の縮減に取り組む。</li> <li>○ 教員一人ひとりが自己の使命と職責の重大さを認識するとともに、コンプライアンス意識の向上に向け取り組む。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
高い志と社会で生きる力を持った生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持った生徒を育成するため、大学、地域等と連携して以下の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「課題研究」</li> <li>② 津西SPP(サイエンスパートナーシッププログラム)</li> <li>③ 津西グローバルチャレンジプロジェクト</li> </ul> </li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「課題研究」を始めとする探究活動に計画的に取り組む。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「課題研究」の取組に対する生徒の満足度80%以上</li> </ul> <p>※ 開始時からレベルが1P以上上がったと感じている生徒の割合</p>	<p>①1年生、2年生の総合的な探究の時間やLHRにおいて、探究活動に系統性を持たせることで、取組の充実を図った。</p> <p>②三重大との連携内容を一部見直して実施した。</p> <p>③ランゲージビレッジ(7月)、エンパワーメントプログラム(8月)、高校生国際シンポジウム(2月)</p> <p>・82.8%(達成)</p>	◎

	<p>○ 難関大学合格のための学力の向上や進路指導のために、学校全体で上位者を育成するための学習指導、進路指導に取り組む。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国公立大150名以上、難関大学20名以上、東大・京大1名以上の合格（過年度卒業生を含む）。</li> </ul> <p>○ 校門指導等により、遅刻の防止や挨拶の励行を徹底する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻数前年度比 10%減</li> </ul>	<p>国公立193名 難関大学20名 東大京大1名 (達成)</p> <p>R4年度 732 87%増 (未達成) (R3年度 391)</p>	
<p>命を大切にす る教育の推進</p>	<p>○ 授業、特別活動など、すべての教育活動を通して一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進し、自己肯定感を高める。</p> <p>○ 「命を大切にす教育」という観点で人権教育、特別支援教育、道徳教育に取り組む。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 主体的・対話的で深い学びや探究活動を推進し、自己肯定感を高める。</li> <li>② 生徒理解と情報共有のためすべての新入生の出身中学を訪問する。</li> <li>③ 特別な支援を要する生徒についてケース会議を実施し、その内容を全教職員で共有するなど、特別支援教育に学校全体で取り組む。</li> </ol> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活に対する満足度 90%以上</li> </ul> <p>○ 交通事故の防止や自転車の運転マナーなどの交通安全教育を推進する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通事故件数 0件</li> </ul>	<p>①「人権総合学習」に探究活動を取り入れ学習の深化を図った。 ②県内ほぼ全ての出身中学校を訪問した。 ③特別支援教育推進委員会を中心に、特別な支援を擁する生徒等について情報共有や支援員との連携を行った。</p> <p>・「満足」85.1% (未達成) (R3 87% R2 83.5%)</p> <p>3件(未達成) (R3 8件)</p>	<p>◎</p>
<b>改善課題</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻者数の増加については、昨年度同様新型コロナウイルス感染症の影響が大きい。</li> <li>・ 総合的な探究の時間「西考（ニシコウ）」の内容を見直し、1年生に「プレ課題研究」を導入した。探究活動は進路意識や教科学習への意欲の底上げや目的の明確化といった側面があるので、1年生から引き継がれる2年生の「課題研究」をより効果的なものにしていく必要がある。</li> <li>・ 津西グローバルチャレンジプロジェクトについては、コロナ禍でも実施できるよう新たな取組を行った。次年度も生徒の心の「わくわく」を引き出す魅力ある活動を計画していきたい。</li> <li>・ 交通事故件数は減少したが、0件を目指したい。式典ごとに生徒指導主任から注意を行っている。引き続き、自転車や歩行時のマナーについて常に意識させる必要がある。</li> </ul>			

(2) 学校運営等

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>学力、授業力の向上のための組織的取組</p>	<p>○ 高大接続改革に象徴される、これから求められる学力を育成するため、主体的・対話的で深い学びを進める。本校が育成する学力を明確にし、それを全教職員が共有した上で授業研究に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 全教職員が互見授業を実施する(1回/年以上)。</p> <p>② 高大接続改革に対応した作問を行う(1問/実力テスト1回)。</p> <p>③ 「授業アンケート」の実施(2回以上/年)</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力が向上したと実感した生徒 85%以上</li> </ul> <p>○ 組織的で計画的な学力向上のための取組、進路指導を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 進路研修会の実施(4回/年以上)</p> <p>② 国際科学科運営委員会、学力検討会議の実施(4回/年以上)</p> <p>○ ICT機器の効果的な活用方法を検討するとともに、教員のスキルアップ研修に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津西デジタル化戦略会議の実施(5回/年以上)</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PCや電子黒板機能付きプロジェクタなどのICT機器を活用して授業を行った教員 100%</li> <li>・ 一人一台端末を活用した授業実践 全教科</li> </ul>	<p>①12月末まで実施。</p> <p>②実力テスト前に進路指導主事より説明がなされ、それに則った作問が行われている。</p> <p>③生徒・保護者アンケート1回、授業公開時に2回。</p> <p>・78.4%(未達成) (R3 79.8% R2 76.4%)</p> <p>① 計4回実施 ② 計5回実施</p> <p>・ 計5回実施</p> <p>・ 非常勤講師が担当する特定の教科をのぞき、ICT機器の活用が行われた。 ・全教科実践(達成)</p>	<p>◎</p>
<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>○ 教職員の総勤務時間の縮減に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 定時退校日の設定。(1回/月)(定時に退校した職員 80%以上)</p> <p>② 部活動休養日の設定。(1回/週)(休養日を設定した部活動100%)</p> <p>③ 会議時間の短縮。(60分以内に終了した職員会議、各委員会80%以上)</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 時間外労働時間の削減(5時間/月減)</p> <p>② 教員の時間外労働の「上限時間」の遵守</p> <p>③ 休暇取得の増加(1人当たり2日/年増)</p>	<p>① 1回/月実施 (82.2%) (R3 84% R2 76%)</p> <p>② 100% (R3 100% R2 100%)</p> <p>③ 84.7% (R3 80.3% R2 72.4%)</p> <p>① 31.0h (R3 20.9h R2 17.8) (未達成)</p> <p>② 月45時間超 5回以上14名 年間360時間超40名 (未達成)</p> <p>③ 20.72 (R3 19.41 R2 19.32) (未達成)</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
<p>コンプライアンス意識の向上のための取組</p>	<p>○ 教員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上に取り組む</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学校信頼向上委員会」の実施 (3回/年 以上)</li> <li>・ 教員研修会の実施(1回/年 以上)</li> </ul>	<p>・ 3回実施 ・ 1回実施</p>	

## 改善課題

- ・ 欠席連絡、授業プリントや便り等の配信、アンケートなどはICTを活用して実施する体制が整ってきた。授業での活用は今後も各教科・科目の特性に応じて研究に取り組む必要がある。
- ・ 本年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休業がなく、ほとんどの行事を実施することができた。しかし、行事とコロナの両方の対応が必要となり、教員の業務は増加した。また、欠席生徒の学習保障や学習意欲低下へのサポート、メンタル面、生活習慣、人間関係への対応が依然として多い。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・ クロムブックは他の端末に比べて安価ではあるが、家庭の経済的負担を考慮するとともに、一層の電子教材の活用等も検討してほしい。</li><li>・ 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらになるが、「津西SPP」や「課題研究」がより活動的になることを期待する。</li><li>・ 新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限が生徒の心身に様々な影響を与えていると考えられる。自己肯定感とともに自己有用感を高める取組が大事である。</li><li>・ 大学入試の多様化が近年一層進んでいる。様々な入試形態を研究し、生徒一人ひとりの個性を重視した指導もお願いしたい。</li><li>・ 土日等のクラブ指導や時間外の進学指導等はいへん生徒にとって有益であるが、教職員の過重労働時間の増大が心配である。</li></ul>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 一人一台端末を効果的に活用した授業作りに取り組む。</li><li>・ 「西考（ニシコウ）」、「津西SPP」、「津西グローバルチャレンジプロジェクト」の充実を図る。</li><li>・ 生徒の自主性を高める課題の量や出し方等について検討する。</li><li>・ 計画的な学習指導、進路指導に引き続き取り組み、難関大学の合格者増を図るとともに、個々の生徒の学力の伸長と進路実現を支援する。</li><li>・ 全教育活動をとおして「命を大切に教育」を充実し、一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進する。</li><li>・ 交通ルールやマナーについて講習を充実する。学年集会等を通じてその大切さを伝える。</li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 次年度から導入予定のデジタル採点システムについて、研修などの実施により積極的に活用を進め働き方改革に繋げる。また、校内業務のDX化を促進する。</li><li>・ 総勤務時間の縮減を実現するため、業務改善や業務内容の精選に学校全体で取り組むとともに、積極的に部活動指導員やSSSなどの外部人材を活用する。</li></ul>